

平成26年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯地域農学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

農業活性化のために、農業従事者が農業生産に加え、加工や販売等の二次および三次産業も含めたいわゆる六次産業化を展開することが広く叫ばれています。それには当然メリットもあればデメリットもあります。六次産業化を進める際の取り組みについて、あなたの考えを記述しなさい。(800字以上、1200字以内)

平成26年度入学試験問題（推薦入試Ⅰ）

小論文

農学部 亜熱帯地域農学科

出題の意図

あらゆる分野でグローバル化が進み、農業もその渦に巻き込まれつつあり、生き残りを図る上で重大な分岐点に立たされている。従来型の農業から脱却し、たとえば地域資源を活用した独自の戦略を展開することも活路を生み出す一つ的手段と考えられ、そのためには加工・流通・販売等まで有機的につながった“六次産業化”も一つのカギとなる。六次産業化により自ら生産した農産物をアピールでき、付加価値を付与することによって高品質化を図ることができ、さらに流通・販売等における中間コスト削減などが可能となり、経営安定化の上で有利な面も多い。しかしながらこのことは、これまで農産物の生産のみに従事していればよかった農家が加工や流通の部門まで背負うことを意味しており、経営力、技術力、資金力、労働力などの面で解決しなければならない多くの課題が山積している。

亜熱帯地域農学科のアドミッションポリシーにおいては、農林畜産物の開発・生産・流通・消費の合理的な利用に関する教育・研究を行うことを理念としている。目まぐるしく動く世界農業の中で日本の農業、そして沖縄の亜熱帯農業が有利に展開していくための方策を考えることは本学科の学生にとって重要なことである。受験生が農業をどのように捉え、農産物の開発・生産・流通・消費までの一連の流れをどのように結び付けて考えているのかを“六次産業化”を通して問う。